

地球温暖化防止やフ
レイル予防などのイベ
ントで、啓発のための
ブースを出店した際に
は、その問題に関心
ある人だけでなく、関

無関心層を引き込む工夫 クイズと組み合わせて楽しく学習



活用事例の紹介

10月22日に、グロー
バルリゾート総合スポ
ーツセンターサンチェ
リー(廿日市市)で開
催された、「はつかいち
環境フェスタ2023」
で、「恐竜的あてセッ

本教材は、恐竜の口
の中にある標的にボー
ルを当てると、吠えな
がら、煙を吐き出しま
す。本教材を活用する
ことで、主に子ども連
れの家族を呼び込むこ
とが期待できます。

心のない人を呼び込む
ことが大切です。その
ためには、イベントに
来た人の目を引くよう
な仕掛けが必要です。
当協会では、人を呼
び込む手段の一つとし
て、「恐竜的あてセッ
ト」の貸し出しを行っ
ております。的となる
恐竜の模型が2つ、銃
が4つと弾となるスポ
ンジボールを1セット
として、計3セット整
備しています。



恐竜にクイズの選択肢を付けて楽しく学習(上)、
小さな子どもには楽しめるような配慮も必要(下)

「写真参照」来場者は、
パネルで学習した後、
食品ロスに関するアン
ケートに回答し、クイ
ズに挑戦。正解の恐竜
にボールを当てると吠
えるという仕組みで
す。

恐竜的あてセットの

ト」を食品ロスについ
て学ぶクイズと組み合
わせて活用しました。
ブースには食品ロス問
題について学習できる
パネルを設置し、「食
品ロスにつながる行動
はどれか?」というク
イズの選択肢を各恐竜
の模型に付けました
(写真参照)。来場者は、
パネルで学習した後、
食品ロスに関するアン
ケートに回答し、クイ
ズに挑戦。正解の恐竜
にボールを当てると吠
えるという仕組みで
す。

効果もあり、ブースは
盛況でした。

問題に対して無関心
な人々への啓発はとて
も重要です。無関心層
に、問題について知っ
てもらうきっかけをつ
くるために、ぜひ「恐
竜的あてセット」をご
活用ください。
(地域活動支援センター)

マイクロプラスチックの実態評価 知識と技術で社会に貢献

マイクロプラスチック
とは、5mm 未満の微細
なプラスチック類をい
います。マイクロプラス
チックは、プラスチック
が物理的な破損や紫外
線などによる劣化で微細
化されたものや、洗顔
料、歯磨き粉などのス
クラブ剤や合成繊維の
衣料の糸くずなど、日
常生活の中でも発生
します。このマイクロ
プラスチックを生物が
餌と間違えて食べるこ
とにより、消化器官の
詰まりや裂傷、化学物
質の体内吸収などの問
題が懸念されています。
近年、日本でもこの
問題が注目されており
、実態調査や毒性試験
などの研究が進められ
ています。

当協会では、今年度
からこの新しい問題に
対して、試料採取を担
当する環境分析課と、
化学分析を担当する
微量分析課が協同し
て取り組みを始めまし
た。海のマイクロプラス
チック調査では、分析
用サンプルを細かい網
目のネット(写真参照)
で捕集します。この作
業では、降雨や風、水
の動き、採取作業に伴

環境協の 環境生活 センター

③⑥ 環境分析課

うプラスチックの混入
などに細心の注意を
払います。採取された
分析用サンプルは、試
験室でマイクロプラス
チックの数や大きさ、
材質の種類を分析し
ます。最初の分析手
順は、分析用サンプル
に混入しているプラン
クトンや枯れ葉などを
分別することです。そ
の後、目視と顕微鏡
による選別と大きさの
計測、FT-IR(フーリ
エ変換赤外分光光度
計)による分析で材質
判定し、海に漂流す
るマイクロプラスチック
の実態を評価します。

当協会では、これか
ら多様化していく環
境問題や社会ニーズ
に対して、各部署の
専門的知識と技術力
を活かして問題解決
に取り組み、皆さま
の安全、安心な環境
づくりに貢献してい
きたいと考えていま
す。

(環境分析課 村上 徹)



サンプル捕集の様子

『環境協・県衛連65年史』刊行

第1次経営ビジョンの実績を記載

当協会は、昨年12月
に『環境協・県衛連65
年史』を刊行し、公衛
協や協会役員、関係団
体などに配付しまし
た。

65年史は、2013
(平成25)年に刊行
した『環境協・県衛連
55年史』後の10年
における公益活動と、
事業活動の歴史を詳
細に残すことを目的
に編集しました。

2013年は、当協
会が一般財団法人に
移行した年であり、
第1次経営ビジョンを
スタートした記念す
べき年でした。この
10年を振り返れば、
少子高齢化の加速、
地球温暖化の拡大、
大規模自然災害や
新型コロナウイルス
の蔓延など、健康と
環境を取り巻く社会
情勢は大きく変化
し、当協会の活動
も柔軟な対応が求め
られました。

65年史は、巻頭言
および第1部から第
4部の構成としまし
た。巻頭言では、こ
れまでの歩みを年表
で紹介し、65年の
歴史を振り返るこ
とができるようにし
ました。

第1部は、「環境協
10年の取り組み」と
して、第1次経営ビ
ジョンと中期経営計
画における取り組み
の概要を、2017
(平成29)年に実施
した協会創立60周
年記念事業の内容な
どを記載しました。
第2部は「部門史」
として、4セクター
の

実績を詳細に記載し、
可能な限り図や写真
などを取り入れて読
みやすくする工夫を
しました。

また、第3部は「第
2次経営ビジョン」と
して、新しい基本理
念や行動指針、向こ
う10年の経営ビジ
ョンなどを紹介し
ています。第4部
の「資料編」では、
事務局組織の変遷
や財務状況の推移、
広島県公衆衛生大
会や環境保健夏季
大会の歩みなどを
まとめました。

当協会は、これか
らも持続可能な社会
づくりに貢献し、新
しい歴史を積み上げ
ていきます。
(経営企画課 山下 祐治)